

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月11日
【四半期会計期間】	第76期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	ライト工業株式会社
【英訳名】	RAITO KOGYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 阿久津 和浩
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段北4-2-35
【電話番号】	東京(3265)2551（大代表）
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経営管理本部副本部長 山邊 耕司
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段北4-2-35
【電話番号】	東京(3265)2551（大代表）
【事務連絡者氏名】	常務執行役員経営管理本部副本部長 山邊 耕司
【縦覧に供する場所】	ライト工業株式会社 中部統括支店 （愛知県名古屋市中村区名駅南1丁目6番地1号 サン・納屋橋ビル3階） ライト工業株式会社 西日本支社 （大阪府吹田市江坂町1丁目16番地8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	(百万円)	49,526	51,799	109,504
経常利益	(百万円)	5,628	5,315	13,976
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	3,301	3,666	8,930
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,454	4,385	9,553
純資産額	(百万円)	75,645	80,446	80,817
総資産額	(百万円)	108,847	112,079	115,885
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	64.04	73.12	174.12
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	69.4	71.7	69.7
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	4,666	3,687	8,597
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	548	1,741	2,350
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	3,449	4,467	4,687
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	30,046	31,183	30,022

回次		第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	34.34	50.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の第7波による感染者数増加の影響を受けつつも経済活動の制限が徐々に緩和され、景気は持ち直しの動きが続いております。一方で、ウクライナ情勢の長期化による原材料・エネルギー価格の高騰や、外国為替市場での急激な円安・ドル高に伴う物価上昇の影響等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

建設業界におきましては、民間建設投資は企業収益の改善等を背景に設備投資に持ち直しの動きがみられ、加えて住宅投資も底堅く推移するなど比較的堅調に推移しております。また、政府建設投資は防災・減災、国土強靱化及び将来を見据えたインフラ老朽化対策を中心として引き続き高水準で推移するなど、良好な受注環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間における受注高は、当社において道路や港湾関連の基礎・地盤改良工事の受注高の増加したことに加え、中期経営計画「Raito2024」において重点戦略の一つに掲げる補修・補強工事の受注高が増加したことにより、701億8千5百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

売上高は、米国子会社及び国内連結子会社の売上高が増加したことにより、517億9千9百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

利益面では、積極的な機械投資により減価償却費が増加したことに加え、基礎・地盤改良工事における前年同期に計上した複数の高採算工事の反動及び建築工事における資機材価格の高騰により工事採算性が低下したため、売上総利益は105億2千9百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

また、営業利益、経常利益につきましては、売上総利益が減少したことにより、各々49億9千5百万円（前年同期比6.8%減）、53億1千5百万円（前年同期比5.6%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に計上した関係会社株式売却損の剥落により、36億6千6百万円（前年同期比11.1%増）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

「建設事業」

建設事業の連結売上高は、516億3千2百万円となりました。

「その他」

その他事業の連結売上高は1億6千7百万円であり、主なものは建設資材等の販売であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、36億8千7百万円の収入超過（前年同期は46億6千6百万円の収入超過）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上（52億4百万円）及び売上債権の減少（14億8千5百万円）による収入が、仕入債務の減少（40億7千3百万円）による支出を上回ったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、17億4千1百万円の収入超過（前年同期は5億4千8百万円の収入超過）となりました。これは主に、有価証券の償還による収入（9億9千9百万円）及び投資不動産の売却による収入（22億2千万円）が、有形固定資産の取得による支出（15億6千9百万円）を上回ったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、44億6千7百万円の支出超過（前年同期34億4千9百万円の支出超過）となりました。これは主に、配当金の支払による支出（27億3千7百万円）及び自己株式の取得による支出（20億4千8百万円）によるものであります。

以上により、当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比11億6千万円増加し、311億8千3百万円となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億2千8百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営成績の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、短期的には当社グループのコア事業との親和性が高い防災・減災、国土強靭化を中心とした政府建設投資が底堅く推移することが見込まれ、引き続き良好な受注環境が続くものと予想をしております。

このような状況のなか、当社グループ全体で事業量を確保するとともに収益力の向上を図るため、以下の課題を実施してまいります。

安全衛生管理の徹底

「人命尊重・安全第一」の基本理念のもと、労働安全衛生に関する法令や通達の遵守を行うとともに、安全管理活動の拡充と衛生環境活動の活性化により、働き方改革を推進し、持続的な成長に結びつく安全文化の形成に努めてまいります。

専業土木分野における総合力の強化

ICT技術の一層の活用により生産性と品質の向上を目指すとともに、補修・補強分野の強化や、気候変動由来の災害防止に貢献する技術のさらなる開発と普及を図ることで総合力の強化に努めてまいります。

建築事業分野での成長

営業エリアの拡大に向けた経営資源の強化と体制整備を行うとともに、環境性能に優れた高付加価値建物への適応や、設計からリニューアルまで一貫した対応による品質と信頼の向上を図ることで一層の成長に努めてまいります。

海外事業分野での成長

既存市場の維持・拡大と新たな市場への参入により事業量を確保するとともに、組織体制の一層の強化や新たなアライアンスの構築を行い持続的成長に努めてまいります。

技術開発の推進

DXのさらなる推進による業務システムの再構築や、自然環境保全技術の開発を行うとともに、共創の強化と速度を高めた開発の促進を行いサステナブルな成長を担う技術開発の推進に努めてまいります。

経営・財務基盤の強化

戦略的な資金活用とCCCの改善で投資余力を創造し、持続的な成長を見据えた先行投資を実現するとともに、適正利益の確保と利益の全体最適配分を行い、強固な財務基盤の確立と人材の確保に努めてまいります。

(7) 生産、受注及び販売の実績
 受注実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
	受注高 (百万円)	次期繰越工事高 (百万円)	受注高 (百万円)	次期繰越工事高 (百万円)
建設事業				
斜面・法面对策工事	25,158	23,049	22,483	20,757
基礎・地盤改良工事	24,217	25,432	26,919	29,192
補修・補強工事	4,003	7,396	8,569	10,094
環境修復工事	1,637	1,458	2,079	2,465
一般土木工事	2,625	8,704	1,803	5,274
建築工事	9,709	14,794	8,044	14,152
その他工事	619	514	284	185
合計	67,972	81,351	70,185	82,121

(注) 当社グループでは、建設事業以外は受注生産を行っておりません。

売上実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
建設事業	49,389	99.7	51,632	99.7
斜面・法面对策工事	15,952	32.2	16,505	31.9
基礎・地盤改良工事	18,214	36.8	20,013	38.6
補修・補強工事	3,675	7.4	3,220	6.2
環境修復工事	1,381	2.8	551	1.1
一般土木工事	2,867	5.8	3,916	7.6
建築工事	6,931	14.0	7,238	14.0
その他工事	366	0.7	186	0.4
その他	136	0.3	167	0.3
合計	49,526	100.0	51,799	100.0

(注) セグメント間での取引については相殺消去しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	198,000,000
計	198,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	55,504,450	55,504,450	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	55,504,450	55,504,450	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	55,504,450	-	6,119	-	6,358

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	8,570	17.22
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	4,538	9.11
太陽生命保険株式会社	東京都中央区日本橋2-7-1	2,734	5.49
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	2,556	5.13
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業 部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (東京都港区港南2-15-1 品川イ ンターシティA棟)	2,277	4.57
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	2,039	4.09
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1-2-26	1,601	3.21
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東 京支店)	BANKPLASSEN 2, 0107 OSLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6-27-30)	1,172	2.35
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 009-016064- 326 CLT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARF WHARY LONDON E14 5 NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	868	1.74
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	700	1.40
計	-	27,058	54.37

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,570千株
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,538千株

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,739,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 49,713,200	497,132	同上
単元未満株式	普通株式 52,150	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	55,504,450	-	-
総株主の議決権	-	497,132	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式112,665株(議決権1,126個)が含まれております。
 2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(保有自己株式) ライト工業株式会社	東京都千代田区 九段北4-2-35	5,739,100	-	5,739,100	10.33
計	-	5,739,100	-	5,739,100	10.33

(注) 役員向け株式交付信託が保有する当社株式は、上記の保有自己株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	30,022	31,183
受取手形・完成工事未収入金等	36,505	35,137
電子記録債権	3,557	3,493
未成工事支出金	1,770	1,533
有価証券	1,999	1,000
商品及び製品	26	24
仕掛品	0	0
材料貯蔵品	660	573
未収入金	51	38
その他	1,469	556
貸倒引当金	34	33
流動資産合計	76,029	73,507
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	6,419	7,423
機械・運搬具(純額)	3,886	4,265
土地	11,361	11,361
リース資産(純額)	20	29
建設仮勘定	1,075	259
その他(純額)	540	529
有形固定資産合計	23,303	23,869
無形固定資産	257	245
投資その他の資産		
投資有価証券	7,468	7,851
退職給付に係る資産	2,285	2,279
繰延税金資産	1,080	998
その他	5,830	3,695
貸倒引当金	369	367
投資その他の資産合計	16,295	14,456
固定資産合計	39,856	38,571
資産合計	115,885	112,079

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	11,855	9,781
電子記録債務	8,317	6,336
短期借入金	870	1,258
未払法人税等	2,706	1,741
未成工事受入金	2,144	2,624
完成工事補償引当金	172	187
工事損失引当金	0	1
未払費用	2,611	2,355
その他	5,295	6,242
流動負債合計	33,974	30,530
固定負債		
長期末払金	141	154
リース債務	12	16
繰延税金負債	2	2
再評価に係る繰延税金負債	769	769
役員株式給付引当金	107	99
その他	60	60
固定負債合計	1,094	1,102
負債合計	35,068	31,632
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,119	6,119
資本剰余金	6,358	6,358
利益剰余金	70,588	71,508
自己株式	3,411	5,446
株主資本合計	79,654	78,539
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	525	517
土地再評価差額金	1,120	1,120
為替換算調整勘定	1,316	2,088
退職給付に係る調整累計額	364	346
その他の包括利益累計額合計	1,085	1,831
非支配株主持分	77	74
純資産合計	80,817	80,446
負債純資産合計	115,885	112,079

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高		
完成工事高	49,389	51,632
兼業事業売上高	136	167
売上高合計	49,526	51,799
売上原価		
完成工事原価	38,778	41,155
兼業事業売上原価	80	114
売上原価合計	38,859	41,270
売上総利益		
完成工事総利益	10,611	10,476
兼業事業総利益	55	53
売上総利益合計	10,667	10,529
販売費及び一般管理費	5,307	5,534
営業利益	5,360	4,995
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	111	202
受取保険金	111	53
受取賃貸料	136	151
為替差益	15	119
持分法による投資利益	67	-
その他	50	78
営業外収益合計	496	612
営業外費用		
支払利息	13	17
支払手数料	6	17
支払保証料	30	32
賃貸収入原価	132	157
持分法による投資損失	-	31
その他	44	35
営業外費用合計	228	291
経常利益	5,628	5,315
特別利益		
固定資産売却益	3	5
投資有価証券売却益	5	-
特別利益合計	9	5
特別損失		
固定資産除売却損	0	116
退職特別加算金	3	-
関係会社株式売却損	735	-
特別損失合計	739	116
税金等調整前四半期純利益	4,898	5,204
法人税、住民税及び事業税	1,521	1,466
法人税等調整額	80	99
法人税等合計	1,602	1,565
四半期純利益	3,296	3,638
非支配株主に帰属する四半期純損失()	5	28
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,301	3,666

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	3,296	3,638
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42	7
為替換算調整勘定	73	224
退職給付に係る調整額	26	18
持分法適用会社に対する持分相当額	154	547
その他の包括利益合計	158	746
四半期包括利益	3,454	4,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,455	4,387
非支配株主に係る四半期包括利益	0	2

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,898	5,204
減価償却費	939	1,121
固定資産除売却損益(は益)	0	110
持分法による投資損益(は益)	67	31
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	3
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	11	14
工事損失引当金の増減額(は減少)	19	1
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	231	5
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	2	8
受取利息及び受取配当金	115	208
支払利息	13	17
手形売却損	2	1
投資有価証券売却損益(は益)	5	-
関係会社株式売却損益(は益)	735	-
売上債権の増減額(は増加)	5,250	1,485
未成工事支出金の増減額(は増加)	841	255
棚卸資産の増減額(は増加)	2	130
仕入債務の増減額(は減少)	3,139	4,073
未成工事受入金の増減額(は減少)	1,845	470
その他	1,907	1,159
小計	7,346	5,717
利息及び配当金の受取額	115	208
利息の支払額	13	17
手形売却に伴う支払額	2	1
法人税等の支払額	2,778	2,218
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,666	3,687
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	-	999
有形固定資産の取得による支出	862	1,569
有形固定資産の売却による収入	4	47
無形固定資産の取得による支出	19	30
投資有価証券の取得による支出	10	10
投資有価証券の売却による収入	8	-
関係会社株式の売却による収入	1,017	-
関係会社貸付金の回収による収入	2	2
投資不動産の取得による支出	6	70
投資不動産の売却による収入	-	2,220
保険積立金の積立による支出	-	228
保険積立金の払戻による収入	424	392
その他	9	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	548	1,741
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	282	323
リース債務の返済による支出	4	4
自己株式の取得による支出	1,136	2,048
配当金の支払額	2,591	2,737
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,449	4,467
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	198
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,787	1,160
現金及び現金同等物の期首残高	28,259	30,022
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,046	31,183

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルスが与える影響について）

前連結会計年度の有価証券報告書の（重要な会計上の見積り）に記載した、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が当社グループ事業に与える仮定について、重要な変更を行っておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	- 百万円	2百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
従業員給与手当	2,762百万円	2,946百万円
退職給付費用	98	97

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
現金預金勘定	30,046百万円	31,183百万円
現金及び現金同等物	30,046	31,183

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,598	50	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

(注) 2021年6月29日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,746	54	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(注) 2022年6月29日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
売上高			
外部顧客への売上高	49,389	136	49,526
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	527	527
計	49,389	663	50,053
セグメント利益	5,330	30	5,360

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,330
「その他」の区分の利益又は損失()	30
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	5,360

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
売上高			
外部顧客への売上高	51,632	167	51,799
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	560	560
計	51,632	728	52,360
セグメント利益	4,967	27	4,995

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,967
「その他」の区分の利益又は損失()	27
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	4,995

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
斜面・法面对策工事	15,952	-	15,952
基礎・地盤改良工事	18,214	-	18,214
補修・補強工事	3,675	-	3,675
環境・修復工事	1,381	-	1,381
一般土木工事	2,867	-	2,867
建築工事	6,931	-	6,931
その他工事	366	-	366
その他	-	126	126
顧客との契約から生じる収益	49,389	126	49,516
その他の収益	-	9	9
外部顧客への売上高	49,389	136	49,526

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
斜面・法面对策工事	16,505	-	16,505
基礎・地盤改良工事	20,013	-	20,013
補修・補強工事	3,220	-	3,220
環境・修復工事	551	-	551
一般土木工事	3,916	-	3,916
建築工事	7,238	-	7,238
その他工事	186	-	186
その他	-	157	157
顧客との契約から生じる収益	51,632	157	51,789
その他の収益	-	10	10
外部顧客への売上高	51,632	167	51,799

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益金額	64円04銭	73円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	3,301	3,666
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	3,301	3,666
普通株式の期中平均株式数 (千株)	51,551	50,146

- (注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 . 役員向け株式交付信託が保有する当社株式を、1 株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(前第 2 四半期連結累計期間135,875株、当第 2 四半期連結累計期間123,131株)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

当社が施工した工事について係争中の案件があるものの、当該案件が当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすことはない判断しております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

ライト工業株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 秀明

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 崇

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているライト工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ライト工業株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。